

昭和 45 年 5 月 1 日(金)

山小屋ノートが見つからないので、このノートに少々ラクガキ。

1年前と同じ列車に乗って、妙高高原駅前で1年前と同じ人に会いました。

ところが、1年前に比べると今年はべらぼうに雪が多くて、小屋のそばで水芭蕉が見られると思っていたのに全然ダメ。まだ雪がベタベタ。小屋も周りがやっと上をあらわしたところ。

天気は1年前と同じく上天気。これが1年前と同じく5日まで続くかしら。

3036

昭和 45 年 7 月 12 日(日)

芦川さんと山小屋の修理の正式な打合せに来る。しかし、ボールペンのインクが出ず、書けずに挫折。ナットク。

12期 岡戸

昭和 45 年 7 月 29 日(水)

山小屋管理人としての責任上見廻りに来る。整頓があまり良くない。特に便所が悪い。

12期 岡戸

昭和 45 年 8 月 1 日(土)

8月1日 佐木他15人

8月2日 佐木他13人

職場の連中のキャンプ代わりに山小屋に入る。

天気に恵まれず、妙高には登れず。

現役がほとんど山小屋を使っていないのが残念。

夏は夏で楽しめる。ベランダも花火をしたり、ファイヤーをするのに便利。

8期 佐木

昭和 45 年 8 月 10 日(月)

PM4:30 小屋に入る。山小屋には落成式以来きていない。従って、この山小屋で生活するのは初めてである。

9期 木下

昭和 45 年 8 月 11 日(火)

晴。起床6時。高谷池ピストン。のんびりした山行また良し。

9期 木下

昭和 45 年 8 月 12 日(水)

快晴。妙高ピストン。最後の登りがきつい。

9期 木下

昭和 45 年 8 月 13 日(木)

曇り時々雨。買出し。岡田さんのところで掘り出したばかりのジャガイモを貰う。とてもうまい。

9期 木下

昭和 45 年 8 月 14 日(金)

黒姫ピストン。若干バテた。

9期 木下

昭和 45 年 8 月 14 日(金)

PM4:30 着。便所より小屋に入る。一応清掃をしてから、食事の仕度をする。木下さんがPM5:00頃帰って来られる。山下、長谷川他7名。

13期 吉里

昭和 45 年 8 月 15 日(土)

午前中曇り。(AM11:00) 午後強い雨。午前中、小屋清掃&ゴミ穴を掘る。よろい戸の修理、備品のチェック。とうとう井戸が使えなくなる。水はもうほとんど無い。台風が近づいて小屋がきしむ。屋根が剥がれそうになる。

13期 吉里

昭和 45 年 8 月 16 日(日)

午前中強い雨。霧も出る。午後、霧と小雨。小屋の片付け、備品のチェック、穴掘り、井戸が使えない為、水汲み。山下さん、酒井さん、鈴木さん駅まで買い物に出る。雨と霧と風が小屋を取り巻く。台風一過の青空は望めそうもない。皆で話をしたり、近くを歩いたり、トランプをしたり、食事を作り、食べて夜を迎える。何か書きたいような気がします。しかし、言葉が何も無いので、書けません。寂しく、悲しい(いつもの決まり文句)

14期 山ノ井

昭和 45 年 8 月 16 日(日)

数日を共にした人達が帰って行ってしまったのです。それでもまた多くのワンゲルの部員がやって来ました。

(驚かして御免なさい)

ススキの穂が風に揺れ、赤トンボが沢山飛んで、すっかり秋に包まれています。

山小屋は、まだこれから補うところばかりの様です。皆で協力し、使い易い小屋を作りましょう。私達の小屋があることは、とても嬉しい。

山下さん、長谷川さん他7名。

14期 山ノ井

昭和45年8月18日(火)

飽きる、又は限界を感じる、そして失望、絶望と変わってゆく時には、積極的に何かに対して行動を起こすというよりも、むしろかつての、今となっては何ていうことはない思い出にそっと浸ろうとするものなのでしょう。2年前の落成式の頃、山小屋が出来たという嬉しさを全面的に受け入れて、山小屋での楽しいかな生活を想像していたあの頃が懐かしいのでしょうか。山小屋の伐採は2年前の刈り跡に生えた雑草をもう一度刈り取っているに過ぎず、井戸を使わずに道路端のかすかなこぼれ水で食器を洗うのは2年前と同じこと。山小屋もプロパンが入った他は2年前と同じ、いや、2年前の面影さえも、所々となっているような気がするのです。ただ俺が3年になったという年月の流れ以外には何もありません。2年前に夢見た2年後の山小屋の姿をきっと住み良い完成された立派な山小屋にするんだと息巻いた自分に虚しさを感じざるを得ないのです。もはや「俺にはどうすることも出来ないよ」としか言えそうもないのです。出来るだけ長く泊まって、もはや最後になるであろう夏の妙高を思う存分覚えて置きたいと思うしかないのです。でも泣き言ではないよ。今日山小屋に来てみての率直な実感かも。7月12日に来た時は、あまりの荒れ方にもう嫌になったと思ったけれど、でも、合宿後の集結には、このみずぼらしい山小屋も40人を超える仲間でやっと満員になるだろうと考えることが出来た。今は汚くとも、集結した40余人が力を合わせて、もう一度山小屋を横浜国大ワンダーフォーゲル部の山小屋として、綺麗にしてくれると思うことで、7月12日に感じた寂しさは除かれることが出来ましたけど、8月15日集結は無かった。部員全部が集まって山小屋で生活をするという待望の夢は現実とはならなかった。1年と3年、2年のいない山小屋は本当の山小屋ではないよ。飽きる、又は限界を感じる、それから絶望してしまうという時には、目標、理想、夢というような憧れに向かって行くような、どうしてもやるんだという積極的な気持ちは無くなってしまって、過去の思い出に、つまり過去を思い出して懐かしむという過程に活路を見い出そうとするのかも知れない。

山小屋の産声を知らない1年生が、これが僕らの小屋

なのかなと考えちゃうのが怖いんだよ。これは僕らの山小屋ではないよ。まだ君たちの山小屋ではないよ。今はすすけてしまって、完成する前に崩壊する状態にあるんだということを分かって欲しい。きっと山小屋は、妙高苗名小屋は泣いているかも知れない。愛情も愛着も感じてはもらえない山小屋は、自ら自殺しちゃうかも。この山小屋の虚しさは、ただ作っただけで放りばなしの君に責任があるということを知りたい。絶対には君たちの山小屋ではないよ。井戸の水かえ、伐採、ペンキ塗り。

12期 岡戸

昭和45年8月19日(水)

黒姫の乳頭にかかった雲が赤く夕日に染められた頃。
妙高の冠が黒ずんで王者の輝きを忘れた頃。
笹ヶ峰から下る車の砂煙に笹の葉が揺れる頃。
野尻湖のほとりにほのかな灯りがちらつき始めた頃。
山小屋にも黄昏が訪れて笹刈りの手を休めたそのカマの先からスルリと振り逃げた一本の笹にハッとさせられた俺。左右に揺れながら「切ってはいけない」と諭されているような、そんな感じが何故か恐ろしかった。ソーッと後ろを振り返って切り倒した笹に逃げ出したかった。そう、黄昏の不思議さに酔っていたのかも知れない。暮れて行く木々に包まれて、遠い空を見つめていたっけ。

10時頃、下へ向かってマキを運んだ。マキ100束4,500円。それに岡田荘で積み残したマキの運賃500円、計5,000円。汲み取り320円、カマ790円630円、砥石70円。合計6,810円。

12期 岡戸

昭和49年6月23日現在
X=破綻、◎=ゴール、
○=継続中、?=分からず

もてる人

- | | |
|-------------------------|--------|
| 1. 丹羽・・・竹中弘美 | X |
| 2. 中林・・・関口日出美 | ○ or ? |
| 3. 丸山・・・久保田智子 | X |
| 4. 大森・・・二村絹江 | X |
| 5. 岡戸・・・秋野直子 | ○ |
| 6. 望月・・・黙っているけどコイツ居るんだぜ | ○ or ? |
| 7. 長谷川・・・矢島久美子 | ◎ |
| 8. 山下・・・酒井みち子 | X |
| 9. 松永・・・垣内陽子 | ○ |
| 10. 北村・・・長村美和子 | X |
| 11. 竹村・・・土屋和江 | X |
| 12. 柳原・・・伊佐木洋子 | X |
| 13. 海保・・・いるんだもんネー | X |
| 14. 河合・・・地学科のヒト | ? |

15. 鈴木慶子・北海道 中央大学 ?
 16. 高木・・・忘れな草 X
 17. 鵜飼・・・佐久間洋子 X
 18. 西井・・・竹村 X

もてない人

- 高橋・・・女性に対して消極的。女向きでない。興味がないのではないかと。
 彼の場合は情熱が冷めているんだそうです。
- 稗田・・・ウルサイ。飢えた(学問に?本当はウソ!本人が保証する)ような目が怖い。子供なのかな。最近はおトナシイぞよ。
 理性的で優しい方。(こんなこと書くと私個人としては悪乗りするから止めて下さいな。本人がはっきりと言いますが、間違いではないかと思うのですがねえ。)
- 石橋・・・商売女で必死。ズボラなところがモテない。
 ニキビを直さなければダメ。(ズボラなところが信頼されるという説もあります)
- 野田・・・イヤツ。イイ人過ぎる。セックスアピール不足。出ベツ。
 純情な子がいないと言っています。本当は本人はセクシーだと言っています。彼の流し目を見て下さい。
- 丸山・・・口が悪い。(ハンサムという説もありまーすヨ。)しゃべり過ぎる。顔が悪い。当人は満足、それが欠陥。眼がとても澄んでいて魅力的と思う人がどこかに!?
- 桜井・・・まだ毛が生えていない。(どこに?本人もまだ坊やであることを認めています)
- 榊原・・・大人しい。セックスアピールがない。(メガネを取ると2枚目半とか)
- 安藤・・・大人しい。近親相姦に夢中。
- 山川・・・モテ過ぎる。焦っているのが良くない。インポテンツ。性的欠陥あり、ハンサム過ぎる。
 (分からない。いつも見ているのに変ネエ)
- 岡戸・・・大マグレ。本来ならば、ここに書かれるべき。
- 宇野・・・変なところで年を食っている。(眼が大きくてデリカシーのある人)
- 榎本・・・身体的欠陥に帰着する。少女趣味。ホモ気味。M&S。
- 何野・・・犬とおかしい仲。覗き魔。ナヌーが良くない。ホモっ気がある。
- 左藤・・・ナンセンス。知恵遅れ。やはり立たない口では
- 西岡・・・「立たない」断言する。水平思考。(何考えているのか分からない人)
- 山下・・・マグレ。(ナイーブじゃない。歌がバツグーン)
- 桐生・・・精神的欠陥。中性?エゲツないことが嫌い。

立たないわけ?(優しいよ)

- 赤松・・・イジケ過ぎ。焦っている。考え過ぎ。見過ぎ、聞き過ぎ、想像し過ぎ。
- 宇佐川・・・田舎ムードがマイナス、プラス。
- 島田・・・ピンボケムードがマイナス、プラス。
 インベーター。
- 竹村・・・本来モテない。それが本質である。変な時に立つ。
- 中村(友)・・・キザリスト。イジケスト。ケチリスト。
 (杏子おごって呉れる人)
- 平田・・・一見マジメが良くない。お骨が痛い、ガウ。
 床屋と風呂屋へ行き、声を直し、身なりを直す。
- 村松・・・日比谷出身。ソフトムード。ニヤリスト。
 3年まで待て。エリート臭さが抜け切れないところがニクイよ。(とってもイイヤツよ)
- 吉里・・・名前が問題。女と間違える。純情派。(山下さんの次に歌が上手いんじゃない)
- 工藤・・・フテクされる。すぐ泣く。セックスアピールがまだ無い。本の虫。
- 中村(信)・・・ダメされた。インケン。ミンチック。巻き紙万歳!
- 鈴木(道)・・・自信を持つべき。岩崎に似ている。
 立て立て立て。(落ち着いていていいんじゃない)
- 高木・・・いい女。(もうちょっとダメツタラ・・・十ノ二)
- 田代・・・子ども。カワイイ。セックスアピールゼロ。
 (全く同感です)女を感じさせない。あと10年待つ。純なところが全くいい。
- 曾根原・・・0463(31)3734。純情。一度ダイテミな。
- 小口・・・つぶらな瞳。酒ぐせ悪し。15の青春。(ヨッパライの扱い方バツグーン)
- 下田・・・面白い。変わっている。ボケてる。ズレてる。
 モレてる。未来の西岡。(あれで結構、手が早そうだよ)
- 吉田・・・全員笑う。書きようが無い。イイ奴ダネー全ク。
- 狩野・・・よく分かんない。僕を避けている。
- 山ノ井・・・居るらしい。ダメされた。
- 日野・・・キッカイクンの中のアルフォンヌ。ポチ。
 酒ぐせ悪し。火遊び多し。駐在所で一泊。
- 久保田・・・純の女。手を出すな。グラマー。どんぶり位。
 ムニユムニユ。ツネツネムード。プニユ!
 夜の女。かわいい悪魔。二号希望者。
- 池田・・・トッチャンムード。田舎の魅力。網走の貴公子。

昭和45年8月20日(木)

高原はもう秋。今は幸せ。去年の夏も幸せだったけど、

帰ってすぐフラれた。

ススキの穂の間から空を眺めていると、なぜか悲しくなる。早く帰りたい。

下田・竹村、小屋に着く。女性二人は潤んだ目で迎えてくれるが、なぜか男どもは敵意を持っているようだ。さすが美少年二人。

ナンセンス！！竹村と下田は山小屋へ来る前に笹ヶ峰へ行って遊んで来た。

山小屋に来て以来、仕事しかしていなかったの、今日は一日の予定で遊びに行く。笹ヶ峰まで歩き、黒沢までの予定で登山口を登り始める。ところが伐採工事をやっていた迂回させられ、さっぱり様子の分からない所を歩かされて、腹が減って我慢できなくなる。

沢へ降り、そこで焼そばを作る。11人分。榎本、山川、高木、下田、小口、日野、鈴木、佐久間、曾根原、池田、吉田これだけ。そこから笹ヶ峰へ戻りビールを飲む。その後、釣り堀へ行き晩飯のニジマスを釣る。70円/100gなので、かなり高い。7匹釣って14人で食べることにする。お一人様100円強。ここの釣り堀が少しおかしい。餌を入れると魚が集まって来るようになっている。バカでもチョンでも向こう合わせで釣れる。これでは魚屋で魚を買って来るのと少しも変わらない。釣り上げた魚を放してやると罰金200円を取られるらしい。充分楽しんでから、思い切り引っ張ってハリスを切るとか、釣った魚を人のバケツに入れてしまふとか、この種のテクニックは色々あるのだが、何しろ他に釣っている人も無く、道糸が弓の弦みたいで、ハリスがギターのような仕掛けでは、上記の二つはダメ。おまけに釣り堀の爺さんが必死になって眺めているのでは、あまりやる気はしない。

再び歩いて山小屋へ帰る。途中でかなり先を歩いていた日野、池田、小口、鈴木が消える。空模様がおかしくなっているのに、大体黙って消えること自体ナンセンス。許せない行為である。そのうち稲光がして、大粒の雨が降り出す。しばらくして4人が帰る。当然濡れている。バチが当たったのかしらねー。

12期 岡戸

昭和45年8月25日(火)

もう明日帰らなければならなくなった。早いもので、18日に来てから8日間経ってしまったらしい。22日に竹村と高木以外皆帰っちゃった。3人になると寂しくなったみたいな気がしたけれど、慣れてしまうと丁度良いみたいだ。大人数の山小屋は落ち着かないけれど、皆が居なくなって初めて山小屋の生活を楽しむことが出来たような感じ。ポケーツとして空を流れる雲を眺めていると、山小屋での生活というものが何か代え難い素晴らしいものに思われる。一段自分の階段を上ったような気がするの甘いのかしらん。自分の

心の片隅に、思い出の端に、大学生活の1ページに、山小屋で送った日々というものを残すことが出来て嬉しいのです。何かしら物足りないような、そんな感じもあるけれども、もはや現実に戻らなければならないのでしょう。

山小屋を愛する一人として、山小屋委員長(代行?)として、僕に出来ることはこれ位のことだったのでしよう。もっとやりたい事もあったし、やっておかなければならない事もあるように思います。でも時間が無くなってしまったようです。

木をアブに刺されながら、藪から切り出し、マキの大きさに切った仕事は、とても辛いものでした。山にも登らずに防腐剤を塗ったり、マキを作ったり、伐採をしたり、皆よくやって呉れたと思います。

現役の総力を結集して作ったマキをどうか大切に使うて欲しいと思います。何も好き好んでマキを作りに来た訳では絶対ないのです。山小屋を愛するから山小屋の為に、そして山小屋を冬に使う人が困らないようにと、完全な無条件労働奉仕という形で山小屋の整備をしたんだという事をどうしても書いて置きたいのです。皆一生懸命働いて帰って行った事を書いて置きたいのです。11月の半ばに雪がチラつき始め、妙高山がすっぽりと雪に包まれる頃、僕らの作ったマキが、愛する山小屋を暖める事に満足を感じて。

8/14~16 長谷川、山下、望月、中村(友)、吉里、矢島、山ノ井、酒井、鈴木(慶)

8/17 榎本、桐生、平田、小口、鈴木(道)、池田、田代、佐久間、曾根原、吉田、狩野、日野、山ノ井、吉里

8/18 吉里帰る。山川、岡戸、丸山(純)、高木入山。

8/19 平田帰る。

8/20 望月、桐生、田代、狩野、山ノ井帰る。竹村、下田入山。

8/21 榎本、山川、岡戸、竹村、小口、鈴木(道)、池田、曾根原、佐久間、吉田、日野、高木、丸山、下田

8/22 岡戸、竹村、高木以外全部帰る。

8/23 岡戸、竹村、高木

8/24 竹村帰る。

8/25 岡戸、高木

8/26 全部帰る。

12期 岡戸

昭和 45 年 8 月 25 日(火)

新人合宿の最後の夜、雁坂で仰いだ星とこの山小屋で
今晚見る星。今晚も雁坂と同じように天の川が見え、
空いっぱい星が散っている。雁坂で星を見ていた僕
と今、この小屋にいる僕、同じような空の星を見て
いるのに感じ方がまるで違う。新人合宿も峠をこえ自分
なりにせいっぱいやった充実感があった。やっと僕
もワングルの正部員になれるのだという気で星を見て
いたのに、わずか2ヶ月経った今回、何の感慨もなく
ただ星の美しさにひかれたり、人間の弱さ、小ささ
を感じるのみでしかない。まだ、ワングルへ入って山行
の経験は4回、これから回数を重ねるごとに星の見方、
とられ方が変わるだろう、それが僕にとってワングル
といえるものになると思う。

高木(14)

- 1年女子 (14期) 採点 (もちろん100点満点)
狩野・・・ナルシスト、愛嬌がない、したがって可愛
くない、酒豪 (35.5)
山ノ井・・・自己主張型タイプ、ショウ女ではない、
理性派 No.1 酒豪 (15+α)
酒井・・・タヌキ、田舎のオバチャン、みがきが足り
ず (10)
田代・・・池の中の魚 一本気、単純、素朴、未成熟
(つけようがない)
曾根原・・・アセッテイル、募集中、E氏とムニユムニ
ユ (20)
西井・・・C調、ガキ (25)
鈴木(慶)・・・プレイガール、赤ん坊、のろけを平気で
いう (0)
佐久間・・・山川氏のフィアンセ、一年最大の酒豪
(10)
久保田・・・1年で最大規模 ミルクタンク保持者
(40)
高木・・・料理バツグン、顔よし・気立てよし、ひく
てあまた (100)

2年女子 (13期)

- 矢島・・・こまる(意味シン 岡戸氏いわく)ぬけて
いる、ぬれている、もれてる (20)
土屋・・・ベロリン woman、ペロペロキャンディー
(5)
工藤・・・独身主義者、眠り狂四郎 (15)
中村・・・大アネゴ、理論派、接吻のし方バツグン
(?) (10)
河合・・・オレの彼女(岡戸氏いわく)、愛してる(岡
戸氏いわく) (49.5)

3年女子 (12期)

桐生・・・ビーバー (25)

望月・・・1年女子の未来像、赤シャツが3年になる
と小さくなり着られなくなる (20)

秋野・・・名前を聞きアキタ、バカバカシクテ書クキ
ガシナイ (100 ←義理と人情の板バサ
ミで付けた点)

昭和 45 年 9 月 12 日(土)

10ヶ月ぶりにとまりにやって来た。

昭和 45 年 9 月 13 日(日)

空模様あまりかんばしくないが、大谷一妙高一黒沢池
一笹ヶ峰コースに出発。終バスで帰ってくるつもりだ
が、黒沢小屋か高谷池小屋で1泊してくるかもしれない
い

井上

昭和 45 年 9 月 13 日(日)

稗田、野田、桜井、中林、高橋 入山

夜更けて、男3人語り合う。山小屋には昔の思い出が
しみついている。クラブを退部していった昔の仲間た
ち、そして過ぎ去った僕らの日々を懐かしむ。それは
美しいものを美しいと信じ、何よりも憧れと、そして
夢と希望を信じ一日が長ければよいと願った日々。汗
と泥にまみれ共に歩いてきたこの4年間。力不足は否
めなかったが、強い絆で結ばれていたと思う。僕らは
自分たちの若さをワングルに賭け、自分たちの成長を
欲して執行部を構成した。所謂凡人は凡人のそしりを
免れないかもしれないが、結局、僕らは何もできな
かった。僕らの自信のなさ、そして優柔不断さをつく
づく不甲斐ないと思う。今の3年に望むことは僕らの悔
いを繰り返して欲しくないということだ。今夜の山小
屋は霧の帳の底にひっそりとうずもれている。

おれがはじめて山小屋に来てもう何回になるだろう。
未完成の山小屋に整備に来、落成式に来、荷揚げスキ
ー、夏の整備、その中で“山小屋”が徐々に山小屋ら
しくなってきた。その間に多くの人たちの努力や悩み
を使いながら。山小屋委員会で現在の部には山小屋は
無意味だと、OBに現役部員は山小屋から手を引くと
言った事もある。落成式に上級生に腹を立てた事もあ
る。この小屋で一人寂しく寝たこともあった。それら
すべてが、おれのワングル生活の一部として懐かしく
思い出される。いったいおれはこのクラブで何をした
のだろう。まっすぐ進めばよいものを、あれやこれや
と迷い退き、結局一番悪い道を選んできたように思う。

残り少なくなったクラブ生活の中でのちょっとした感傷ですぎないかもしれないが。これからこの山小屋をもっと充実し住みよいものにしてほしい。又、クラブもそれがおれの願いかもしれない。

昭和 45 年 9 月 14 日(月)

今日は井上さん、高橋、桜井、稗田、野田、中林 一行 6 人、笹ヶ峰に遊びに行く。笹ヶ峰ダムを見学したのち、釣り堀にてニジマスを釣る。戦果 高橋 1、野田 2、桜井 2 (他に 2 匹をつりあげそこなう) 中林 2、稗田 0 (やらなかった 本当は) 1 m 6 0 ぐらいの大物 2 匹は釣りそこなう。

昭和 45 年 9 月 15 日(火)

・煙突掃除をする。ススがものすごくつまっていた。煙突の継ぎ目からタールがもれるので、向きを逆にした。煙ももれず上出来。支柱を植え込み、煙突を立てる。

井上さん下山。

又釣りに行く。戦果 高橋 2、野田 2、桜井 2、中林 1、稗田 0。

中林、桜井は下山。

昭和 45 年 9 月 15 日(火)

昨日につづき本日も「つり」。昨日と変わり本日は本格的に挑戦したけれど、全く才能のないことを認めざるを得ず、今後は足のついた魚専門にすることにします。よろしく！(それにしても昨日の雨はいい雨だったネー！)

今日は煙突をおっ立て非常に気分がよい。やはり朝は調子がいいのかもしれない。まあ、ここまでやれば文句がないだろう。又、昨日に引き続き魚釣りに行った。またまた昨日に引き続きよせ鍋を食べた。人生これ以上の優雅な事はない。ニジマスは新鮮でうまい。又、食べ方が非常に変わっていた。今日も一日が過ぎていった。下界と何の関わりもないかのように。

今年も又、山小屋に来てしまった。唐松林も昨年よりは大分のびたようだ。朝、山小屋に着き一眠りし、表に出てみた。浅い霧の中にうっすらと浮かぶ唐松の影。水は汲みに井戸の方に歩いていくと、突然、目の前から山鳥が飛び立った。ハッと目がさめた気持ちだった。ああ、僕は今、山小屋に来ているのだなと思った。晩になって酒の酔いも手伝ってふと外に出てみた。黒々

とした唐松の梢に歪んだ月が気味の悪い黒雲に見えかくれしている。聞こえるのは草の陰に鳴く虫の声だけ。次の次の晩、中林と桜井も下山し、小屋の中にはキカイの三バカのみ。三日目になると、話のタネも尽きてくる。しかたなく、このノートを手にしたわけです。明日は笹ヶ峰に行つて鱒を釣つてから下山するつもりです。

この小屋は少人数の時、適している。高い天井を見上げながら一人「迷想」にふける時、4、5人の友、2、3人の友と語る時、現実の生活から離れた別世界を現出させる。現役がこの小屋を使うのは冬だけしかないので、夏はそのための準備期間か。もっと大勢が使えるようにしなければ、山小屋は少ない人達の思い出の場としてしか存在しないだろう。この冬、20人で生活した時の不便と寒さと苛立ちはこの小屋についてまわるだろう。もはやワンゲルは全体としてまとめられないかのような象徴として。

昭和 45 年 9 月 16 日(水)

のべ4日間の滞在を終え今日下山します。御世話になりました。今度の戦績は煙突そうじ、煙突立て、流しの取り付け(外の部分が未完成。コンクリートの溝でもつけるとすばらしいでしょう。)、こたつ台を机(テーブル)に改造、などです。(すのこ1枚で作りましたよ。←私が作ったのです。(桜井)自己宣伝) 白金袋のついたランプはどうも不調のようですね。その外、小屋そなえつけの大ろうそくがなかったため、非常に暗い思いを強いられました。

これからは戸のついた食器棚のようなものが欲しいですね。残念なことは人が見てあまり素晴らしいような忘れ物が見受けられたことです。忘れ物は思い出だけであってほしいですね。(特に女性は気をつけて下さいネ!) 今回 9/10 現在 2 階を張る材料だけがベランダに置いてありますが、まだ工事は始まりません。その外、気がついた事は煙突についていた黒い「もよう」は雨水が流れ込んできて煙突内のスのかたまりを溶かして、あふれ出たものです。今度は汚れないように逆向きに差し込んでおきましたが、まだ横にねている部分からはもれてしまうようです。

2階が張られたらすぐにも階段をつくりましょう。はしごはどうも物足りない感じです。さようなら、そのうち、又、やって来ます。 以上 1970.9.16.12.45

今度の山小屋はいつもとちがった。4年生の男ばかり、やっぱりいいものだ。だから今度来る時には下級生にもこの楽しさを分けてあげたい。そんな気持ちです。シアワセヨ!

朝から大雨であった。又、例によってどこにも山へ行かなかった。それでも、やはり小屋は小屋であった。早く2階が出来、皆で楽しく過ごしたい。流しはホースが若干小さいので、気をつけて使って下さい。そのうち太いホースをつけますから。煙突は雨が降ると水がたれてきますから、注意して下さい。

昭和45年10月9日(金)

森、山川×2、榎本、望月、真鍋 入山
2階でレスリングをしようと思ってやってきたが、材料がベランダに積んであっただけであった。プロパンガスもまだ届いていない。岡田さんの所で岩崎、榎本、山川で稲刈りをしてくる。腰と腕が痛くなる。風呂^{風呂}に入ってビールとリンゴをもらってきた。

昭和45年10月10日(土)

朝起きたら腰が痛い。まっすぐ伸ばすのにそうとうな時間を要した。4-6でキノコとりに行く予定であったが、目が覚めたのは6時半、外はもう明るかった。いいかげんやる気がなくなる。望月がたっぷり時間をかけて朝メシを作ってくれる。そのうちに一番のバスがやってくる。これに乗って森さんの彼女がやってくる。多少寒いのでストーブを使っているが、薪が一本一本減っていく心細い。人に使わせるもったいないし、自分で使うのも、もったいない気がする。雨にも負けずキノコとりに出かけたが、午前中だけでやめてしまい、午後は高沢からシャレー黒姫へ行く途中にある釣堀でマスを釣った。ここは1kg 500円。笹ヶ峰では1kg 700円。よ〜く比較されたい。その釣堀は岡田さんの家から1km位。
夕食は非常にデラックス。
杉野沢で岡戸と岩崎に会った話をする。岡戸には会いたくないという人がなぜかたくさんいる。(この辺の事情はよくわからない。)(インキンがうつるのを心配する人もいるらしい。)
今年あまりキノコはとれなかった。まだ、冷え込み方が足りないようである。明日は草津を経て横浜まで帰る予定。

昭和45年10月11日(日)

数えて何回目の山小屋になるのか、指を折るのも面倒だ。会社の人を連れてきこの取りに来る。いっぱいとれました。今年の秋は遅いようで白樺も唐松も色づいていない。昨日今日と秋の絹雨(シルクレイン)が小梢に降りそそいでいる。あと4、5日もするとみごと

なモミジになるでしょう。井上さんの力作、写真集を広げていると学生時代の1つ1つの山行や一人一人の思い出が次から次へと浮かんで来て、しばし昔に帰ったような気がして本当に楽しいものでした。それにつけても私の写真が一枚もないのはどうしたことでしょう。ショック。ちょうどあれは僕等の新人歓迎の時です。井上さんが例によって新人を一人一人カメラにおさめたのですが、どうしたわけか、そこにも忘れられた存在が1人あった。それもやっぱり僕だった。何かの恨みでもあるのでしょうか。井上さんに返答を願いたい。

8241 MORI

以上 映倫カット。

山小屋日記No.4を使うべし。納得あるのみ。